

平成29年度

事業報告



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

【施設概要】

名称	種別	所在地	定員
本部事務局		泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 202	
横浜市中央浩生館	更生施設	南区中村町 3-211	入所 68 通所 20 訪問 10
よこはまりバーサイド泉 ※放課後等デイの名称は「よこはまりバーサイド泉わかば」	障害者支援施設	泉区下飯田町 355	施設入所 60 生活介護 80 短期入所 6 放課後等デイ 5
横浜市大岡地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	南区大岡 1-14-1	通所介護 30
グループホームゆい	共同生活援助	泉区和泉中央北 6-26-8	28(7 ホーム計)
横浜市箕沢地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	中区箕沢 13-204	通所介護 40
横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	保土ヶ谷区川辺町 5-11	
居宅サポート・リバーサイド泉	居宅介護・訪問介護ほか	泉区和泉中央北 6-3-13	
グループホームサンライズ	共同生活援助	泉区和泉町 1197-1	16(2 ホーム計)
よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨	生活介護	泉区下飯田町 1374-2	20
グループホームアンダー	共同生活援助	保土ヶ谷区常盤台 64-18	13(2 ホーム計)
横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか 4 階	
よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり	生活介護	泉区下飯田町 811-6	生活介護 20 放課後等デイ 5
アテイン	就労継続支援 A 型	泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 201	10
インカル	就労継続支援 B 型 就労移行支援	中区翁町 1-3-9 タムラビル 2 階	就労継続支援 B 14 就労移行支援 6
グループホームすてら縁	共同生活援助	南区真金町 1-6-55 阪東橋ステラ	10
横浜市多機能型拠点こまち ※診療所の名称は「なごみクリニック」	多機能型拠点	瀬谷区二ツ橋町 489-45	生活介護 40 児童デイ 5 短期入所(医療型 10、福祉型 5)

(名称の網掛けは、指定管理施設)

《経営理念》

夢と希望のもてる誰もが住みやすい社会との架け橋を築く

《基本理念》

- 1 人々に共感と信頼の得られる社会福祉事業を行うことにより、人々の安心した暮らしの実現を支援します。
- 2 地域の関係機関と連携しながら、地域における福祉の環境づくりに貢献します。
- 3 堅実かつ効率的な経営に務め、サービスの質の向上と安定的な提供を確保します。

法人本部

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 会計体制の整備	各事業所に対し、会計に関する内部監査を実施した。内部監査では、会計事務処理体制の確認に加えて、利用者預り金、利用者負担金の業務マニュアル確認を行った。不備のあった事項については、全事業所とも年度内に改善を完了した。
② 採用活動	コア人材に位置付ける新卒者の採用活動については、目標数の10名の採用に至った。
③ 障害者雇用	目標とする全事業所での雇用達成には至らなかったが、これまで未雇用であった4事業所において新たな雇用に至った。
④ グループホームアンダー	町内会の防災訓練への参加を行うなど、非常災害時の体制強化を行った。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
アテイン(定員10名)	9.5人	8.8人	9.5人	8.9人
アンダー常盤台(定員6名)	5.8人	6.0人	5.8人	5.7人
アンダー中里台(定員7名)	6.8人	6.9人	6.8人	6.6人

横浜市中央浩生館

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 更生施設本体事業(入所・通所)の利用定員確保	利用人員数は前年度に比べ減少した。前年度実績に比べ、施設のルール違反(管理規定違反)に伴う退所者が増加した。ただし、12月より措置人員は増加に転じた。
② 更生施設本体事業及びすてら縁における利用者自立支援の強化	入所目的を満たして自立退所された方11名(うち2名がすてら縁に入居)が、地域での生活を開始した。
③ 更生施設本体事業及びすてら縁における地域との協力関係の強化	更生施設の本体事業として、町内の公園清掃や地域行事(餅つき大会やレインボーフェスタ)への参加、南消防団への入団(職員5名)、高齢者定期訪問を行うなど、地域との連携に務めた。 すてら縁では、希望する入居者と職員が地域の祭りに参加し、地域住民との交流を行った。また、防災訓練では利用者に怪我人が出たことを想定した避難計画を策定し、地域住民の協力のもと訓練を行った。
④ 更生施設本体事業及びインカルにおける、作業の継続提供維持及び目標工賃の達成	インカルでは新規作業受注先を4社増やしたことにより、1日5時間の作業を年間通して提供できた。外部作業収入は、対前年度比で約150万円の増加となり、18,000円を上回る工賃を支給することができた(※神奈川県工賃支給平均額15,295円)。
⑤ 利用者の金品の着服事件及びその対応	昨年6月に職員による利用者の金品の着服という、社会に対し信用・信頼を裏切る重大な事件を引き起こしてしまった。この事件を受け施設の体制の見直しを行い、再発防止体制の構築を行った。同時に施設入退所基準や施設ルールの見直しと、その徹底を図ることで正常な施設運営を取り戻した。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員 68名)	68人	65.0人	68人	57.8人
通所(定員 20名)	18人	17.6人	18人	16.1人
訪問(定員 10名)	10人	5.8人	10人	8.9人
インカル就労移行支援(定員 6名)	5人	5.9人	5人	4.9人
インカル就労継続支援(定員 14名)	12人	11.1人	12人	11.1人
すてら縁(定員 10名)	10人	7.3人	10人	9.4人

よこはまりバーサイド泉

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況

① 総務課

危機管理体制の整備に向け、水害及び震災マニュアルの整備及び訓練を実施した。また、セキュリティーの向上に向け、指紋認証による入退出管理を導入した。特に震災時の避難訓練に関しては、多くの利用者と職員が基礎知識を習得できるように6回実施した。産業廃棄物置き場の改修等小破修繕を、専門ボランティアのグループに依頼しコスト削減に繋げた。

② 入所支援課

ノーリフトケア導入に向け、研修の実施、床走行リフト2台、天井走行リフト2台増設に加え、利用者アセスメントおよび業務分析による業務効率化により、リフターの使用率50%を達成。新規リフター導入前後に対象職員に実施したアンケートでは回答者の94%から「機器導入後に身体的負担が軽減した」との回答があり、働きやすい職場への改善がはかられた。

③ 地域支援係

職員個々の業務目標マネジメントにより、サービスを効率的・効果的に提供することができた。また、職員の質とサービスの質が相関して向上し、平成29年度利用者満足度アンケートでは、回答者の約90%(前年度比5%向上)の方から「職員の対応言葉遣いに満足し、利用を継続したい」との回答を頂いた。短期入所事業の実績は、ミドルステイ利用者の入院や土日受け入れの休止により目標値を大きく下回った。

④ 児童支援係

近隣のスーパーマーケットのフードコートへのランチ外出・工場見学等を実施、また、施設内交流として成人デイサービスの活動に参加した。地域社会の様々な方との触れ合いの機会を持つことにより、自然な形で社会性の向上を目指した。利用実績については、期中の利用中止により、目標を大幅に下回る結果となった。

⑤ 健康管理係

食事形態や嚥下に関しては、食事時の専門職からの助言や介助マニュアルの見直しにより、利用者の現状にあった対応ができるようになった。また感染予防に関しては、実施研修により初期対応力の向上により感染拡大を防ぐ事ができた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員60名)	58人	59.28人	58人	59.06人
生活介護(定員20名)	17人	16.6人	19人	17.4人
短期入所(定員6名)	5.4人	5.16人	5.4人	4.6人
放課後等デイサービス(定員5名)	5.5人	5.09人	5.5人	3.8人

横浜市大岡地域ケアプラザ

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況

- ① 介護保険事業における安定的な収入確保のためのシステム作り
- (ア) 居宅介護支援事業においては、平成 30 年 4 月からの「特定事業所加算 (Ⅲ)」の取得に向けて、主任介護支援専門員研修の受講、3 名の常勤職員の配置等、諸条件を整え、横浜市に申請をした(平成 30 年 4 月 1 日付で受理)。
- (イ) 通所介護事業においては、平成 28 年度、延利用者数 8,031 人(22.3 人/1 日平均)まで落ち込んだ利用者数を延ばすべく、所内での連携を強め、新規の受入れ、回数増などの要望に応えることに力を入れ、また外の事業所には大岡の通所介護の特徴をアピールしながら利用者数を延ばした。
- ② 認知症の方々への支援及び介護予防事業の推進
- (ア) 「認知症サポーター養成講座」を地域の小学校、地区社会福祉協議会、区社会福祉協議会と連携し、授業の一環として毎年 6 年生を対象に実施することが定着し、若い世代に対する啓発を進めた。また、同様に地域の公的機関、企業等にも同講座を開催し、幅広く地域において認知症の啓発を行った。
- (イ) 「元気づくりステーション」など既存の事業はもとより、地域の公園など、野外のスペースを広く使った「大岡はらっぱ脳トレ会」なども実施し、それを目にした方が参加を希望するなど、地域における介護予防に対する関心を広げる一助にもつながった。
- ③ 人材育成・職員の定着
- 産業医を交えた「安全衛生委員会」を毎月実施し、職員の健康維持、職場における安全の確保などを進めてきた。毎月、個別のテーマに対して職員が担当となり取り組む中で、安全・衛生に対する意識も向上し、風通しの良い職場環境づくりにもつながり、その効果もあってか平成 29 年度は常勤職員の退職者はゼロであった。
- ④ 地域・関係機関等との連携、協働
- 地域の特別支援学校と協議の場を持ち、「福祉教育」の一環として、ケアプラザでの清掃活動、サロン等の手伝い、歌などの披露等、活動の場として、また社会に出る前の社会参加の体験の場として、ケアプラザを活用していくことを双方で確認し合い、1 年間を通して交流を図った。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員30名)	25.0人	22.3人	25.0人	23.3人

横浜市箕沢地域ケアプラザ

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 地域包括支援センター	<p>(ア) 地域の高齢者が集う場(サロン・各種クラブ等)に出向き、個別相談にて介護保険制度や介護予防に関する情報提供、普及啓発、健康相談等を助言した。また、見守りキーホルダーの取組み「地域で安心して生活できる環境づくり」の推進や、介護予防講座の開催により、その人らしく活動等に参加できるよう支援した。いつでも気軽に不安等の相談を受けやすいように声かけ等を積極的に行った。</p> <p>(イ) 権利擁護の普及啓発研修は開催できなかったが、あんしんセンターや関係機関の役割等を個別対応で丁寧に説明をした。</p>
② 地域活動・交流事業	<p>(ア) 連合町内会と地域福祉保健計画活動の連携により、元気づくり推進協議会の立上げが決まり、5月の設立総会に向けて事務局として取組んだ。</p> <p>(イ) ケアプラザの自主事業、中区の事業、箕沢地域ケアプラザの貸館サークルの活動を各機関と連携しサポートした。また、新たに学齢期相談を受けられる体制作りをした。</p>
③ 生活支援体制整備事業	<p>(ア) 町歩きにより地域資源の把握に努め、アセスメントシートを基に地域支援チーム会議で区役所職員等と第六地区の理解を深める事ができた。</p> <p>(イ) 地域の活動等に参加させていただく事で顔見知りの関係作りが進み地域の方からサロン開設の相談を受け、必要な支援ができた。</p>
④ 居宅介護支援事業	<p>地域包括支援センターと連携し、地域の特性に合わせて「その人らしい生活」が送れるように公正中立の立場で適切な支援をした。利用者が減少傾向である為、居宅会議等で情報共有し増加につながるように取組んだ。</p>
⑤ 通所介護事業	<p>(ア) 「個別機能訓練加算」や利用者の希望等を尊重した活動・対応により、利用者数を維持する事ができ、営業日減(雪)による影響は最小限に抑えられた。</p> <p>(イ) 重大な送迎事故により、リスクマネジメント委員会を立上げ、デイサービス部門だけでなく全体で事故検証し、再発予防に努めた。また、運行前点検やドライバーの健康状態確認を徹底。運転技術向上や危険予知に対する研修を実施し事故予防に努めた。</p>

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員40名)	29.0人	30.5人	30人	30.4人

横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 関係機関との連携の強化	三機関の関係性を含めて、計画相談や地域移行・定着、啓発などの事業をとおして、良好な関係性が保たれてきており、それぞれの事業も円滑に進められることができてきた。
② 指定特定相談支援事業の効率的な体系の構築	区役所や基幹相談支援事業所などの依頼に加えて、周辺の地活や訓練施設で、センターの事業説明と計画相談の説明を行い、スムーズに導入できる仕組みを試みた。
③ 自立生活アシスタント事業の支援体制の確立と他事業との関連性の整理	昨年度に引き続き、長期にわたる支援を見直し、計画相談を導入することによって、事業で支援する面とセンターやその他の支援機関で賄う支援とのメリハリをつけるように展開した。
④ 地域移行・地域定着支援の実践	対象者の状況に合わせた専門職のチーム、治療プログラムやサービスなどを組み合わせ、ハイブリッドな支援を展開した。地域の支援依頼にこたえ続けるために、退院 ⇒ 地域生活に定着 ⇒ 支援終了 の循環を15ヶ月サイクルで実践した。 また、病院・行政・地域の事業所と実践・経験値のノウハウを共有するための研修を6回開催して、支援者同士の共通認識と地域資源の開発を行った。

2. 稼働実績

事業名	契約数			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
地域移行・地域定着		18人	15人	12人/14人
計画相談		46人	100人	139人

事業名	H29年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	14人	11人	8人	6人

居宅サポート・リバーサイド泉

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① グループホームゆい	<p>(ア)入居者様個々の状態に合わせた制度移行や福祉機器の導入を各機関と連携し実施した。</p> <p>(イ)施設老朽化や機器の故障、植栽等環境整備に対してその都度、方法や価格など最善の方法を検討しもれなく実施した。</p>
② グループホームサンライズ	<p>生活上の自己管理が困難な方に対し、主治医や関係機関と情報を共有し連絡帳等で対応を統一化したことで入居者様の健康や生活意識向上につながった。</p>
③ 居宅サポート・リバーサイド泉	<p>(ア)常勤男性職員が1名増員され、相談機関等との連携を密に取ったことにより、前年度縮小せざるを得なかったホーム利用者様、在宅利用者様の外出支援を復活、拡大することができた。</p> <p>(イ)IT化については障害福祉分野に対し現状サービスが少なく、事業者選定に時間を要し次年度に持ち越しとなった。</p>
④ 相談支援	<p>面接回数を3か月ごとに確保し収益を上げつつ、市独自の制度である自立生活アシスタントや後見的支援制度を活用し、利用者様自立のための支援や手続き等を実施してもらい、将来の相談先としてつながり続けられる体制を整えた。</p>

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
共同生活援助(ゆい) (定員28名)	27人	27.5人	27人	26.9人
共同生活援助(サンライズ) (定員16名)	15人	16人	15人	15.4人
障害)居宅介護	48.4時間	50.7時間	50時間	49.2時間
障害)移動支援	18.8時間	18.6時間	20時間	20.5時間
障害)同行援護		0.3時間		0.2時間
介護保険)訪問介護		5.9時間		6.2時間
計画相談	145人/年	65人/年	70人/年	69人/年

よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 泉Ⅱ・泉Ⅲにおける組織体制の連携及び強化(泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目)	「よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨」、「よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり」の管理職・事務職の勤務分担などを行い、決裁などスムーズに対応できるよう努めた。
② 医療的支援の強化(泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目)	利用者の医療的ケアの増加及び内容の変化などに伴い看護師を加配、安全な医療的ケアが提供できる環境を整えた。また泉Ⅱ・泉Ⅲ間における看護師の応援体制も実施した。
③ 風通しの良い職場環境作り	全職員が日々の活動や各種行事など事業運営に関わる機会を作り参画していくことで、職員間の意見交換がしやすい環境の設定、声をかけやすい雰囲気作りに努めた。
④ 職員のスキルアップ	日常業務の中でもOJTを有効に活用し、介助方法の確認などを実施した。また新人職員育成のツールを利用し、指導を進めていく中で互いのスキル確認に取り組んだ。また法人職員研修を実施。法人職員として、福祉現場で働く職員として大事な視点を学んだ。
⑤ 業務効率化への取組み	業務内容の洗い出しと適正な配分、スケジュールの立て方や企画立案の進め方などを確認するところまで実施した。
⑥ 計画相談の充実	新規依頼がなかったことにより、契約件数は伸びなかったが、モニタリング回数の見直しを実施。入退所を始めより丁寧な支援提供に繋がった。また行政が実施している検討会や研修事業の参画により、最新の情報を内外に発信していった。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護(定員20名)	20.6人	21.1人	21.5人	22.3人
計画相談支援(契約数)		176人	185人	172人

※計画相談は契約者数

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 関係機関との連携	<p>鶴見区役所、基幹相談支援センターと毎月定例会議を行い、連携強化に努めた。その結果、困難事例等に対して合同訪問を行う機会が増えた。また、自立支援協議会内に精神保健福祉部会を立ち上げることを目標に、精神保健福祉連絡会を開催し、実際に平成30年度より部会化することになった。家族会との連携強化にも努め、引き続き役員会に職員を派遣し、家族会フォーラムにも協力をした。フォーラムは、約300人が集まり大盛況となり家族会との連携も深まった。</p>
② 職員の資質向上	<p>職員の資質向上については、新たに加わった職員を中心に様々な相談場面を想定したロールプレイ演習を実施した。その結果、職員同士で互いに刺激しあう機会を設け、新人職員の成長を促すと共に、ベテラン及び中堅職員の意識を高めることに繋がった。また、区内でも困難事例と言われる方々(未治療、ごみ屋敷状態等)の所へのアウトリーチ活動をOJT担当職員と新人職員に担当させることにより、新人職員の成長促進を行った。結果、長年勤務していた退職者からも新人がスムーズにケースを引き継ぐことができた。</p>
③ 精神科医療機関との連携	<p>鶴見区基幹相談支援センターと連携し、区内精神科病院に働きかけ、入院中の患者様及び職員に退院に関するアンケート調査を実施した。生活支援センターが主導で精神科病院と協力しながらのアンケート調査は、当センターが開所後では類似の取り組み事例は見受けられず、横浜市内の他生活支援センターへも好影響を与えるものと考えられる。</p>

2. 稼働実績（平成30年3月31日現在）

事業名	契約数				
	H28年度		H29年度		
	目標値	実績	目標値	実績	補足説明
地域移行・地域定着		12人	10人	9人	
計画相談		38人	75人	47人	年度途中に異動もあり、相談支援専門員減少

事業名	H29年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	24人	4人	17人	7人

よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 泉Ⅱ・泉Ⅲにおける組織体制の連携及び強化(泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目)	「よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨」、「よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり」の管理職・事務職の勤務分担などを行い、決裁などスムーズに対応できるよう努めた。
② 医療的支援の強化(泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目)	登録特定行為事業者の登録申請、登録を行い、介護職員も医療的ケアを実施できる環境を整えた。また泉Ⅱ・泉Ⅲ間における看護師の応援体制も実施した。
③ 選んで頂ける魅力ある事業所作り	事業所発行の広報紙「のぞみ・ひまわり通信」を関係機関にも配布、広報活動を展開。また学校訪問時などに、事業所のPR活動を積極的に行なった。
④ 職員のスキルアップ、事業所リーダー育成への取り組み	業務に必要な研修を、年間を通して計画的に実施、全職員が外部研修に参加する機会を作った。また法人職員研修を実施。法人職員として、福祉現場で働く職員として大事な視点を学んだ。加えて、事業所の運営状況を開示することで、リーダーとして運営に関心を持ち全体を見渡すことが出来るような意識付けに取り組んだ。
⑤ 業務改善の継続的な取り組み	常勤・嘱託会議において、事業所全体の業務についての話し合い、障害者雇用の導入準備に向けて業務の洗い出しを行なった。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護(定員20名)	20.1人	20.7人	18.3人	18.8人
放課後等デイサービス(定員5名)	6.3人	6.1人	6.1人	5.8人

横浜市多機能型拠点こまち

1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況
<p>多機能型拠点が出来たことにより、今までサービスを受ける事が出来なかった方が、安心してサービスを受けられるようになった。複数事業を横断的に利用いただくことにより、利用者の生活の質の向上や家族の介護負担軽減に貢献した。</p>
① 診療所
(ア) 利用者の受け入れ時の健診や体調不良時の検査・治療を実施した。
(イ) 一般外来の充実を図るため、学校・近隣施設での講演、区役所での乳児検診、休日急患診療等への参画等を行った。
② 訪問看護(訪問リハ含む)
退院から在宅支援への移行を円滑に行うため、地域中核病院等との連携を強化した。
③ 相談支援
一般相談の登録者 167 名に対して、こまめな実態調査等を行い、地域生活を総合的にサポートした。また、計画相談においては 15 名の契約を結んだ。
④ 短期入所
(ア) 福祉型短期入所で最重度の医療的ケアを要する利用者の受け入れを行うことにより、家族に対してレスパイトの機会提供の拡大を行った。
(イ) ニーズの高い金・土の宿泊を重点的に実施し、木曜を含む週 3 回の宿泊を定期的に行った。
⑤ 医療型日中一時支援(泊なし短期含む)
(ア) 高度の医療的ケアを要する障害児・者に一時的なケアを提供することにより、家族のレスパイト、就労、社会参加の機会提供に貢献した。
(イ) 他施設でも実施事例が少ない、最重度の未就学児についても受け入れを行った。
⑥ 居宅介護
個々のニーズに応じたサービス提供を行うため、訪問看護との情報共有により、身体介護に加えて、介護職員による医療的ケアを提供し、在宅サービスの充実を図った。
⑦ 放課後デイサービス
看護師・リハビリ・児童指導員等の連携のもと、医療的ケアを要する障害児の能力に合わせ、安心・安全なサービス提供を行った。
⑧ 生活介護
医療的ケアを中心とした重度重複障害者を対象に、個別支援計画に基づいた、入浴、排泄及び食事等の支援、余暇・創作的活動や生産活動を提供した。
⑨ 福祉有償移動サービス
看護師同乗の送迎範囲を拡大し、医療的ケアを要する利用者の送迎拡大を図った。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	H28年度		H29年度	
	目標値	稼働数	目標値	稼働数
診療所			10	8
訪問看護(訪問リハ含む)			4	1.5
相談支援(計画相談)※1年間の契約者数			20	15
福祉型短期入所(定員5名)			2	1.2
医療型日中一時支援医療型特定短期入所 (定員10名)			8	6.4
居宅介護			4	2.6
放課後等デイサービス(定員5名)			5	4.4
生活介護(定員40名)			6	4.8
福祉有償移動サービス			3	1.1